令和６年度坂井市総合教育会議 会議録（概要）

日　時：令和６年７月２３日（火）午後１時３０分より２時４５分まで
場　所：坂井市役所　１階交流ホール

【会議日程】
１　協　議
(1)　令和６年度の重要施策
・ふるさと教育について
・環境教育について
・国際交流の推進について
(2)　学校給食のあり方について
(3)　部活動の地域移行について
(4)　その他

【出席者】
池田禎孝市長、林晃司教育長、宮﨑美恵子教育長職務代理者、橋本明子委員、
牧田靖夫委員、齊藤弘喜委員

総務部	松本部長
環境推進課	北川課長
教育部	中田部長、吉村次長(教育総務課長)、半澤次長(生涯学習スポーツ課長)、井尻次長（文化課長）
学校教育課	永田教育審議監、伊東課長
生涯学習スポーツ課	新家（スポーツ振興担当）課長
丸岡城国宝化推進室	北林室長
坂井市立図書館	吉田館長
事務局書記	高嶋補佐、小林補佐

【会議概要】
市　長　　（あいさつ）
こんにちは。今年度から齊藤委員が新たに加わっていただき、教育行政について議論いただく場である。SOE（Sakai Original Education）について、後ほど説明もあるかと思うが、SaKAI 学推進プラン、SakaICT 教育推進プラン、外国語教育推進プラン、通うのが楽しい学校づくり、学校施設の整備ということで、5 本柱になっている。PTA の皆様にはリーフレットを配らせていただいた。ふるさと教育、キャリア教育、これから企業訪問などをしたい。文化に関しては、「日本一短い手紙」コンクールですとか、昨年度から行っている小松長生先生のスクールコンサートという事柄。ICT では、新しくプログラミング先生を小学校中学年に導入する。全中学校には、レゴの SPIKE プライムを導入する。情報活用能力の育成では、LINE みらい財団と協力し、「GIGA ワークブックさかい」を作成する。外国語教育では、低学年から英語に親しむ教育を坂井市独自で始めている。今年度は 5 年ぶりに青少年の招へい事業

を再開する。通うのが楽しい学校づくりでは、校内教育支援センターを設置する。施設整備では、昨年度は、雄島小学校と長畝小学校のリフレッシュ工事が終了している。今年度は三国南小学校に着手している。加戸小学校は昨年に引き続き工事を行っている。中学校の体育館の空調設備設置を県内で一番早く着手するということで進めている。今日の議題でいうと、ふるさと教育、環境教育、国際交流、学校給食のあり方、部活動の地域移行となっている。教育に関する分野が新しくなっている。教員の働き方改革も含めて、非常に多忙になっている中で、いかに働きやすい職場に環境整備していくかも大きな課題である。盛りだくさんではあるが、ポイントを絞って協議しながら意見交換させていただきたい。よろしくお願い申し上げる。

市　長　　坂井市総合教育会議を開催する。
まず、ふるさと教育について説明をお願いする。

教育審議監　（資料に沿い説明）

市長　　コロナも落ち着いてきて、このような活動ができるようになってきた。ただ今の説明についてご質問、ご意見ないか。

齊藤委員　　各学校の取組一覧を拝見させていただき、各学校、いろんなことをしていただいている。ふるさとを愛し、大切にする心を育んでいただいていると感じた。それを踏まえて２点質問と提案をさせていただく。ふるさと教育をしていただく先生方への研修は、説明の中で話があった以外にもあるのか。あるのであれば、どのような内容なのか伺いたい。２点目は、地域の取り組みの中で、小学校で自分たちの地域のことを探究学習していることが資料からわかるが、中学校でも似たような取り組みになってしまっている。ここで例えば丸岡中学校の生徒が三国のことを調べる、というような、同じ坂井市の自分が住んでいる地域とは違う地域のことを学習し、三国中学校の生徒へプレゼンテーションするようなことができれば、地元に住んでいながら、気づけなかったことに気付けるチャンスになると思う。調べることの地理的な困難さはあるが、ご検討いただければと思う。

市長　　なるほど、目から鱗というか、素晴らしいアイディアだ。１点目の研修について、ご回答をお願いする。

教育審議監　　地域に関することは学校それぞれであり、内容のことを学ぶ研修はない。説明に出た研修は、探究学習のスタイルを学ぶものだ。すぐに答えが出てしまう課題では学習にならないので、ある程度の見通しを持った長い活動になるような課題の設定や、先生方のつぶやきから、こうするといいといったようなことを光成先生から教えていただいている。県の事業になるが、CM を作るとか、発表するとかの研修がある。ICT 機器をどう使うか、先生向けの研修と、子どもたちへ直接教えるようなことを市や県で行っている。ふるさと教育でも、環境教育でも、同じことの繰り返しにならないか、という懸念があ

るが、先輩の学習したことを後輩が聞き、聞いた内容をもっと追求しようか、というようなことをやっている。市長が参加された、丸岡中学校の丸岡 LOVERS などがそれである。毎年同じことの繰り返しであっても、取り組むのは違う児童生徒であるので、追及の仕方、アプローチの仕方の違う探究学習になる。ほかの校区での発表はすごくいいと思う。いまのところ、学校内での発表や、三国町では、三国中学校区の小中学校が集まって魅力を発表することをやっているが、校区をまたいではやっていない。それをすることで、子どもたちの方から、自分たちの地域ではこうだが、隣ではどうなのか、といった意識が出てくると大変いい。地域の特色がないと思っていても、ほかの地域を学習することで、ここにも似たようなものがあったという発見や、子どもたちからほかの地域も知りたい、という意欲が出てくるとよい。オンライン等を使った交流を考えていきたい。

市長　　そういうような工夫をしていきたいと思う。ほかにないか。宮﨑委員お願いする。

宮﨑委員　　ふるさと CM コンテストの表彰式に行かせていただいたとき、とてもうまくできていて感動した。地元のことをよく調べて、作成している。せっかくできた CM を、校内では保護者に見てもらっているだろうが、市民が見る機会がない。すでにアピールされているところがあったら、私が知らないだけである。市民が見られる機会があるといい。キャリア教育の協力企業を増やしていくのか。

市長　　回答をお願いする。

教育審議監　　ふるさと CM コンテストをご覧いただきありがとうございます。今年度も作成中である。県ではふるさと教育フェスタの期間、はぴりんの大画面で流れている。坂井市での放映について検討したい。

市長　　ケーブルテレビはどうか。総務部長。

総務部長　　ケーブルテレビや、ホームページ上の You tube に動画を載せることは可能かと思う。検討する。

教育審議案　　宮﨑委員２点目のキャリア教育の協力企業について、今年度、３４社ご協力いただくことになっているが、まだまだ増やしていく。

市長　　広報誌などを使い増やしていく。

教育長　　IT 関係の企業、プログラミングに関する企業なども増やし、５０社以上としたい。

橋本委員　　それは坂井市内か。

教育長　　はい。

市長　　次の議題へと移る。環境教育について説明をお願いする。

環境推進課長　（資料に沿い説明）

市長　　私も見学した。非常にいい取組である。坂井市の売りと思う。橋本委員、何かあるか。

橋本委員　　地球環境問題はすごく大きな問題で、子どもたちにとってはあまり身近でないが、このような授業をすることで、関心を持つし、正しい知識を身に着けることができる。正しく知ることが、自分たちで何ができるかを考えることにつながっていくのではないかと思い、すごくいい事業である。講師はどなたなのか、いつまで続けてもらえるのか。それと、子どもたちの反応はどうだったのか、それが家庭に結び付き、家庭での取り組みの事例があったら紹介をお願いする。

市長　　令和３年度から６年度の事業で、今年度は春江町内の小学校でしている。4町を一通り回り終えた。講師を外部の方にお願いしている。７年度以降は全ての小学校６年生で行いたい。そのためには、講師を教員がしてもらいたい。難しくはないので、レクチャーを受けて授業をしてほしい。教員にとっても探究学習の一環として携われる。子どもたちが、自らのこととしてグループ学習をし、どういうことをすると地球温暖化防止につながるか、プラスチックごみをどうしたら減らせるか、関心を高めてもらっていて、それが家庭の中でごみを減らそうということにつながっている。親に働きかけているのだろうと思っている。単なる受け身ではなく、子どもたち自身で考えさせる、気付かせるスタイルで値打ちがある事業だ。先日、文部科学省と環境省へこのスタイルの PR に行ってきた。文部科学省の雑誌に取り上げてほしいと思う。６年度で終わるのではなく、７年度以降も広めていきたい。中学校は６年度が準備期間で、７年度から始まる。これも旧町単位で始めるが、全ての中学校を対象に広めていきたい。ある程度積み上げはあるので、教員にとって過度な負担ではないと考えている。教育委員会に協力いただきたいが、教育長はどのように考えるか。

教育長　　研修を含め、考えていく。

市長　　ほかにご意見ないか。委員の皆様方に、授業をご視察いただけるとありがたい。次に国際交流について説明をお願いする。

生涯学習スポーツ課長　（資料に沿い説明）

市長　　宮﨑委員には団長をお願いするということで、長い期間になりますが、よろ

しくお願いする。

宮﨑委員　　これまでつないできた、招へい事業、派遣事業の人と人とのつながりが途切れる前に交流が再開できたことをとてもよかったと思う。先日は、招へい事業の中学校での交流の様子を見せていただいた。5年のブランクを感じさせない交流が双方出来ており、うれしく思う。今回の構成は中学生、高校生、チューターとなる。新しく加わった高校生とチューターにはどのようなことを期待されているのか。また事前研修のことで、5年前の中止の際の団長も私だったが、坂井市の事前研修はとても充実していて、英国には行けなかったが、研修で得た経験が自分にとってとてもよかったという感想をどの生徒からも聞き、感動した覚えがある。構成が変わることによって、今までの研修が難しいのかなと感じているが、どんな研修にしていくのか。

市長　　では、担当課からお願いする。

生涯学習スポーツ課長　1点目の高校生、チューターに期待することであるが、中学生が多いということから、サポート役と、学年を超えた交流を期待する。また、中学生、高校生、チューターを問わず、文化、習慣、国の違いがあっても、人や国の平等を願う気持ちを培っていただきたいと思っている。もう一つ、将来、何らかの形で坂井市に貢献していただきたいという思いがあり、事前研修でお伝えしていきたい。2点目の事前研修についてですが、基本的には変える予定はない。高校生は、高校側の推薦を必要とし、事前研修に参加することを推薦の条件とし、選考いただく。チューターに関しても同じように、事前研修の参加を条件としており、前回同様、必要な研修は確保していきたい。

市長　　私も、来られた時に思ったのは、英語は話せるといいなと感じた。一言は出るが、会話として続かない。中学生がそういう方々と交流することによって、英語を勉強したいという意欲にもつながると思った。派遣も大事だが、ALTによる授業も充実させるといいのかなと思った。今年から小学生低学年も英語の授業を実施するので、国際的な視野に立ったことができると思う。5年のブランクを感じさせることなく進めていきたい。国際交流に関して何かあるか。

市長　　無ければ次に行く。学校給食のあり方について、説明をお願いする。

学校教育課長　（資料に沿い説明）

市長　　給食は学校生活の中で楽しみの部分でもある。坂井市は合併したということもあり、3通りの方式をとっている。そういった中で、何をどう進めていくか検討する段階である。これについてご意見をお願いする。

宮﨑委員　　説明にあったように、坂井市では3つの方式がある。子どもたちの声を直接確認する場があるのか。把握していることはあるか。

市長　　担当課からお願いする。

学校教育課長　県の教育委員会が児童生徒に給食のアンケートを行っている。昨年度の結果を見ると、学校抽出で、自校式、委託、センター方式、全てにおいて、給食がおいしい、どちらかと言えば給食がおいしい、は８割以上。給食が好きというのも、８割以上であった。

市長　　市役所を訪れる小学３年生が、市長室にも来る。給食はおいしいか、と尋ねると、全員おいしいと言う。ちなみに、好きな献立は何か、と聞くと、ほぼカレーライスと答える。私から質問だが、献立は３つの方式で異なるのか。

学校教育課長　給食センターと自校式には栄養教諭、管理栄養士がいる。その方が献立を作成している。ランチサービスや、つぐみ福祉会は、これら委託先の栄養士が献立を立てるが、市の管理栄養士が内容について確認させていただいている。

市長　　そんなに差がないということか。

学校教育課長　はい。

市長　　牧田委員どうぞ。

牧田委員　　三国学校給食センターの給食も、春江坂井学校給食センターの給食も有料で食べたことがある。どちらも大変おいしい。給食センターの最大提供数に対して何％くらいを作っているのか。学校給食を民間に委託すれば、民間企業は、学校給食のほかに、お弁当を提供するとかいろんなことを考えていくと思う。三国学校給食センターは民間に委託されたが、春江坂井学校給食センターも委託を考えていったらどうか。

学校給食課長　調理能力は、三国学校給食センターは１日当たり３，５００食で、実際作っているのは約２，５００食、春江坂井学校給食センターは４，８００食で、実際作っているのは約３，１００食である。調理能力はあっても、人や、設備を増やさなければならないということは出てくるのではないかと思っている。

市長　　傾向的に、自校式から委託になっていることが多いのか。

学校教育課長　全国的にみると、国の調査で、民間に委託しているのが全体の６０％くらいとなっている。

市長　　安全で安心なおいしい給食を安定的に提供することが大切で、今後コスト面も計算しながら、６年度７年度で検討していきたい。部活動地域移行について、これも大きな課題で、事務局からの説明をお願いする。

スポーツ振興担当課長　（資料に沿い説明）

市長　　これに関してご質問等あるか。

牧田委員　　部活動地域移行は難しいと思っている。私も３０年間スポーツ少年団を指導してきた。勝つためにやるか、健康のためにやるか、指導者によって考えが違うし、練習方法も違ってくる。小学生の時、思い切りやったが中学生では違うクラブに入るということもある。私はそれでいいと思う。地域へのクラブ活動の移行はしていかないといけないと思うが、指導者の講習もしなければならないと思う。個人的には小学生、中学生は勝つための練習をしなくてもいいのではないかと思っていて、高校生になって自分の考えでやれるようになってからでいいのかなと思う。スポーツ少年団の延長で中学生も一緒に練習できるようにするというのはできないのか。それと、文化部も地域への移行を推進していくという考えでよいか。

スポーツ振興担当課長　　文化部も、令和７年度になったら、指導者の確保をしていきたい。ただ、吹奏楽部に関してはいろいろ課題がある。どうやってクリアにしていくか検討しながら令和７年度末までには何とか進めていきたい。

市長　　重要な課題であり、PTA のご意見も伺いながら進めていきたい。今年は趣向を凝らし、５点について個別にお話を伺った。従来の資料、第二次坂井市教育振興基本計画の取組みとしてまとめた。これに限らず、全体を通して感想など、一人お一言ずつ、齊藤委員から順にお願いする。

齊藤委員　　教育委員会委員になって初めての総合教育会議であった。今回、参加させていただき、中学校の PTA の役員もしており、PTA の視点から、保護者の考えのアップデートが必要なのかなと感じた。特に、部活動の話は、親御さんが私と同じくらいか少し若いくらいの方なので、先生方の現状を踏まえて考えるとき、保護者の考え方や見方をアップデートしないとなかなか難しいと、この会議に参加させていただいて感じたので、PTA の活動の中でも、皆さんに少しずつお話できればと思った。

牧田委員　　坂井市ができて１８年が過ぎた。しかし、今でも地域の差はあるのかなと思う。坂井市は一体として考えなければならないと思う。例えば、今回の給食の提供の仕方だが、坂井市全体で一つに統一するのがよいのではと考える。自校式が例外とはせずともよいと思う。みんなが平等なのがよいのではないかなと感じる。

橋本委員　　教育委員会委員として学校の授業をたくさん見せていただいている。ICT 教育を進めていただいており、子供たちは上手に使っている。感心、感動している。それを教える先生方も教材研究を重ね、努力されている。子どもたちが大人になった時、すごい力を身に着けてくれていることと期待する。小松長生さんの「音楽への扉」を、今年は規模の小さな小学校で聴かせていただいた。演者と子どもたちがすごい近い距離で一体となって楽しんでいる様子

を見て、ずっと継続していただけるといいなと感じた。

宮﨑委員　　教育委員会委員をさせていただいて７年目になるが、就任と同時くらいにタブレットが導入され、あっという間に子どもたちは慣れていき、学校教育での学習の仕方が大きく変化していっている。保護者が勉強を見て教えたりできていたことが、今ではそれも難しいのではないかと感じている。だが、私が学校に求めるのは、人間性を育てていただきたいということだ。学校は、人と人との関わりを学ぶ場であってほしいと感じる。部活動のことにしても、自分を振り返ると、学校の思い出と言えば、部活動のことであるのに、その部分が学校から切り離されていくのかなと、仕方のないことだが寂しく思う。教育とは、その市の将来につながる大切な部分で、子どもを教える先生方が、教師をしていてよかったと思えるようになっていていただかないと、と思う。やりがいを感じて勤務していただけるよう、教育委員会としても子どもを中心に、先生方も守っていきたい。

教育長　　いつもの教育委員会とは違い、本日は市長を交えて意見交換いただいた。まだまだ坂井市教育委員会の課題はある。例えば、ICT の話も出たが、子どもたちの使用状況とは裏腹に、先生方が与える機会はまだ低調な状況であるので、推進していかなければならない。これからを生きる子どもたちにとって、何がふさわしいかしっかり考えて全員で執行していく。

市長　　教育というのは、変わらないといけない部分と変えてはいけない部分がある。行政もそうだが、５年前の事柄が参考にならないという時代のスピードがある。教育現場もそういうところがあり、宮﨑委員がおっしゃったように、変えてはいけないところもある。教員の皆さんはそれに気づいていらっしゃってストレスもかかえているだろう。そこを乗り越えていただき、目線は子どもたちのためによくする、というところにモチベーションを高く持っていただき進めていただきたい。そういう目線で私も行きたいと思うので、引き続きよろしくお願いする。本日はありがとうございました。会議を閉会する。